

ミレニアル世代をめぐって

犬 飼 孝 夫

はじめに

現代アメリカ社会では、いわゆる「ミレニアル世代」(The Millennial Generation)と呼ばれる人々の動向が注目されている。彼らは一体どのような人々なのだろうか。小論では、アメリカのシンクタンク、ピュー・リサーチ・センター(Pew Research Center)が2014年3月7日に公開した報告書“Millennials in Adulthood: Detached from Institutions, Networking with Friends”¹⁾の内容を紹介しながら、ミレニアル世代と呼ばれる人々の特徴について考察したい。

1. ミレニアル世代とは

先にあげたピュー・リサーチ・センターの報告書“Millennials in Adulthood”は、2014年2月現在において18歳から33歳までのアメリカ人1,821名を対象として調査したものである。2014年2月時点で33歳の人々は、1980年3月から1981年2月までに生まれた人であり、まさに世紀転換期の1998年ないしは1999年に18歳の誕生日を迎えている。2014年2月時点で18歳の人々は、1995年3月から1996年2月までに生まれ、2000年代以降の2013年ないしは2014年に18歳の誕生日を迎えている。

「ミレニアル」(millennial)とは「1000の、1000年の」という意味の形容詞であり、上記の報告書が「ミレニアル世代」として調査対象とした人々は、

西暦が 1000 年代から 2000 年代に変わる頃、すなわち、「1980 年から 1996 年の間に生れ、20 世紀から 21 世紀に移り変わる世紀転換期の頃、および、2000 年代に入ってから成人(18 歳)に達した人々」ということになる。

ただし、この報告書の調査はミレニアル世代の中でも、2014 年 2 月現在で 18 歳から 33 歳までの若い成人を対象としたものであり、1996 年 3 月以後に生まれ、2014 年 2 月現在で 18 歳に達していない未成年のミレニアル世代は調査対象になっていない。だが、報告書の注記には「最も若いミレニアル世代は十代(teens)であり、何歳までをミレニアル世代とするかはまだ定まっていない」²⁾と書かれている。2014 年 2 月時点で 13 歳(thirteen)の子供は、2000 年 3 月から 2001 年 2 月にかけて生れている。ミレニアル世代にこのようなティーンエイジャーも含めるとするならば、ミレニアル世代の定義は「アメリカで 1980 年から 2000 年の間に生まれた人々」³⁾ということになるだろう。あるいは、この世代の年齢の下限はまだ定まっていないということなので、より広く「1980 年以降に生まれた人々」と定義することもできよう。

2. 「世代」の区分

ともあれ、ピュー・リサーチ・センターが 2014 年 3 月 7 日に公開した報告書 “Millennials in Adulthood”は、2014 年 2 月現在で 18 歳から 33 歳までのアメリカ人、すなわち「アメリカで 1980 年から 1996 年の間に生れた人々」を調査対象としている。したがって小論では、これらの人々を「ミレニアル世代」として、その特徴を論じることにする。

アメリカで 1980 年から 1996 年の間に生れたミレニアル世代、すなわち、2014 年 2 月現在で現在 18 歳から 33 歳までの人々の特徴をより明確にするために、同報告書ではその他の世代区分も用いられている。1965 年から 1980 年までに生まれた人々(2014 年現在、34 歳から 49 歳まで)を「X 世代」(Generation X)、1946 年から 1964 年までに生まれた人々(2014 年現在、50 歳から 68 歳まで)を「ベビーブーム世代」(The Baby Boom Generation)、1928 年から 1945 年までに生まれた人々(2014 年現在、69 歳から 86 歳まで)を「沈黙世代」(The Silent Generation)と区分している。⁴⁾

3. ミレニアル世代の特徴

(1) デジタル・ネイティブ

ミレニアル世代はインターネットや携帯電話、ソーシャル・ネットワークキング・サービス(SNS)をはじめとする新たなネットワーク技術を当たり前のもので受け入れてきた唯一の世代である。インターネットは1980年代に拡大し、1990年代にはティム・バーナーズ=リーが考案したワールド・ワイド・ウェブ(World Wide Web)の登場を境に、インターネットの爆発的な普及が始まった。⁵⁾

ミレニアル世代よりも以前の世代は、これらの技術に「適応する」必要があったが、ミレニアル世代は、子どもの頃からこれらの技術を生活の場で使いながら育ってきた世代である。このようなミレニアル世代は「デジタル・ネイティブ」(digital natives)と呼ばれている。実際に、ミレニアル世代の81%がフェイスブック(Facebook)を使っており、フェイスブック上に平均で250人の友人を持っており、その数は他の世代と比べて多い。⁶⁾ インターネット上のソーシャル・ネットワークキング・サービスであるフェイスブックの生みの親であるマーク・ザッカーバーグは1984年生れであり、まさにミレニアル世代の代表的存在と言えよう。

ミレニアル世代は、インターネット上の友人の中における自分の位置づけ方にも特徴がある。55%がソーシャルメディアサイトに「セルフイー」(Selfie)すなわち「自分撮りの写真」を掲載しているが、そのようなことは他の世代の人々はあまりやりたがらないことである。⁷⁾ 実際にピュー・リサーチ・センターの調査によれば、「セルフイー」(Selfie)が何を意味するのか知っている割合は、ベビーブーム世代では10人中6人、沈黙世代では3分の1の割合にすぎない。⁸⁾

(2) 人種的多様性

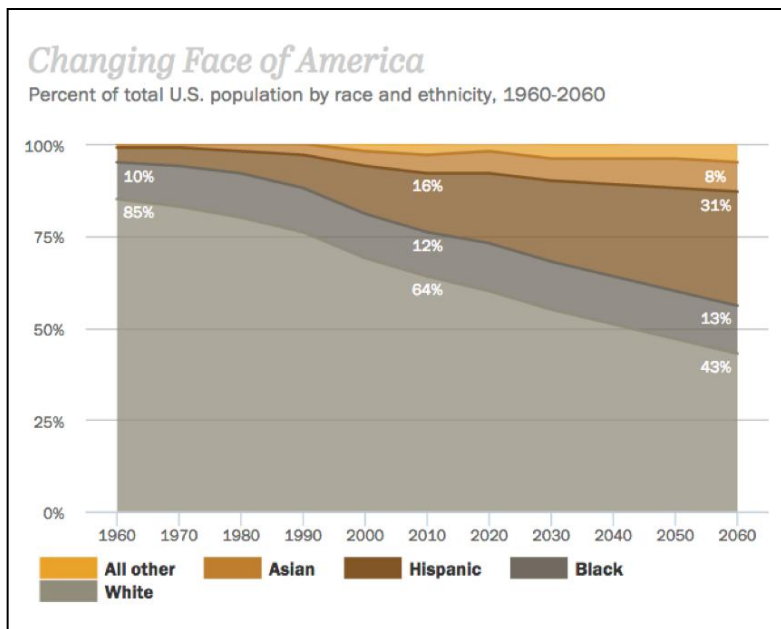
ピュー・リサーチ・センターの報告書によれば、アメリカで1980年から1996年の間に生れたミレニアル世代の成人の約43%は非白人(non-white)であり、その割合は他のどの世代よりも高い。非白人が占める割合は、X世代で約39%、ベビーブーム世代で約28%、沈黙世代では約21%となっている。⁹⁾

このように、ミレニアル世代はアメリカ史上最も人種的に多様な世代であ

る。それは、過去 50 年間にアメリカにやってきた多くのヒスパニックおよびアジア系移民のアメリカ生れの子どもたちが、今日、成人に達しつつあることによるものであると報告書は述べている。¹⁰⁾

ミレニアル世代の人種の多様性が高いことが示すように、アメリカ社会全体においても人種の多様性は高まりつつある。今日、アメリカで誕生する赤ちゃんの約半数は非白人である。¹¹⁾また、合衆国国勢調査局が 2010 年の国勢調査結果に基いて試算し、2012 年 12 月に公表した、2012 年から 2060 年までの人口動態予測によれば、これまで総人口の中で過半数を占めてきた非ヒスパニックの白人(non-Hispanic white)は、2043 年頃に多数派の座を失うことになるという。¹²⁾

この予測によれば、2012 年に 1 億 9,780 万人だった非ヒスパニックの白人の人口は、2024 年に 1 億 9,960 万人でピークとなり、その後は減少に転じ、2024 年から 2060 年までの間に約 2,060 万人余り減少し、総人口に占める割合は 2010 年の 64%から、2060 年には 43%となってしまう。一方、2012 年に 5,330 万人だったヒスパニックの人口は、2060 年には 1 億 2,880 万人にまで増



Changing Face of America

	2010	2040	2050	2060
All other	3%	4%	5%	6%
Asian	5%	7%	8%	8%
Hispanic	16%	25%	28%	31%
Black	12%	13%	13%	13%
White	64%	51%	47%	43%

Pew Research Center, Paul Taylor, The NEXT America, April 10, 2014, "America's Racial Tapestry Is Changing"
<http://www.pewresearch.org/next-america/#Americas-Racial-Tapestry-Is-Changing> > 30 March 2015.

加する。現在では、アメリカ人の「6人に一人」がヒスパニックであるが、2060年にはアメリカ人の31%、すなわち「3人に一人」がヒスパニックとなる。¹³⁾ 上記のグラフと表は、ピュー・リサーチ・センターと Paul Taylor によるアメリカの2060年までの人口動態と人種割合の予測である。アメリカ社会の人種構成は、21世紀半ばに向けて大きく変化していくことが読み取れよう。

¹⁴⁾

ところで、ピュー・リサーチ・センターの報告書によれば、ミレニアル世代は他人をあまり信用しない傾向があるという。「一般的に大半の他人は信用できると言えるか、あるいは、人づきあいの際には注意するに越したことはないか」という問いに対して、X世代では37%、ベビーブーム世代では40%、沈黙世代は37%が「大半の他人は信用できる」と答えている。一方、そう答えたミレニアル世代は19%に過ぎない。¹⁵⁾

同調査は、このように、他人をあまり信用しないというミレニアル世代の傾向は、その人種の多様性によるものかもしれないと分析している。2007年に同センターが行った分析によれば、マイノリティと低所得の成人は、他の集団に比べて他人への信頼度が低かった。¹⁶⁾ 他の同様の調査結果¹⁷⁾から、社会学者たちは、何らかの理由で社会における弱味や不遇感を有する人々は、

他人を信用することに危うさを感じる傾向にあると結論づけている。

(3) 経済的状況と将来展望

ミレニアル世代は、その前の2つの世代(すなわち X 世代とベビーブーム世代)が若かった頃と比べて、より多くの学生ローンを抱え、貧困や失業を経験し、より少ない富と収入に甘んじざるを得ない状況に置かれている。¹⁸⁾

ピュー・リサーチ・センターの報告書によれば、こうしたミレニアル世代の苦しい経済状況は、2007年から2009年までの不況の影響、および、アメリカの労働人口がグローバル化と急速な技術革新の影響を長期にわたって受けてきたことによる。今日、アメリカの平均家計収入はピーク時の1999年当時の収入を下回っており、長期の不景気が続かなかで貧富の差が拡大した。このようなマクロ経済的な傾向は、2007年頃に就職期を迎えたミレニアル世代の中でも年齢層の高い人々(2014年現在26歳から33歳)にとって、特に厳しいものとなった。アメリカは2007年から深刻な不況に見舞われ、まだ完全に回復しているとは言えない状況にあると同センターの報告書は分析している。

ミレニアル世代の中でも年齢層の高い人々の3分の1は、4年制の大学あるいはそれ以上の学歴を有している。彼らはアメリカ史上最も学歴の高い若者集団となっている。ミレニアル世代においては、学歴と経済的成功には、それ以前の世代に比べて極めて高い関係性がある。今日の社会では知識集約型経済(knowledge-based economy)が主流になりつつあり、ミレニアル世代の若者の中でも大学に進学しなかった人々は、賃金と雇用の面で、それ以前の世代が若かった頃と比べても、大卒者より厳しい状況に置かれている。¹⁹⁾

だが、大卒の若者たちもまた、彼ら独自の経済的負担を負っている。彼らは記録的な額の学生ローンを抱えている。大学の学士号を取得した者の3分の2は、平均2万7,000ドル(1ドル100円として270万円)の学生ローンを抱えている。20年前は、大卒者の半数が平均1万5,000ドル(1ドル100円として150万円)の負債を抱えていたにすぎなかった。²⁰⁾

ピュー・リサーチ・センターの報告書によれば、成人に達した若者の多くがなかなか結婚しない理由の一つは、経済的に苦しい状況にあるからではないかと分析している。2013年現在、ミレニアル世代の既婚率は26%である。ミレニアル世代と同じ年齢層だった時に、X世代は36%、ベビーブーム世代

は48%、沈黙世代は65%がすでに結婚していた。ミレニアル世代の平均結婚年齢は他の世代よりも高く、男性は29歳、女性は27歳となっている。未婚のミレニアル世代の多く(69%)は、結婚したいと思っているが、その多くが、特に収入と教育レベルの低い若者たちは、結婚生活に必要な確固たる経済的基盤に欠けている。²¹⁾

このようなミレニアル世代だが、彼らは前の世代よりも、アメリカの将来について楽観的な見方を持っている。ミレニアル世代の49%が、この国の将来は明るい("the country's best years are ahead")と答えている。そのように答えたX世代は42%、ベビーブーム世代は44%、沈黙世代は39%であった。1974年にギャラップ社が行った世論調査によれば、当時の30歳以下の成人(1960年代末から1970年代にかけて成人に達したベビーブーム世代)では、アメリカの将来に「大いに」自信があると答えた割合は30%にすぎなかった。このことから、現代のミレニアル世代は、昔の若者たちと比べて、将来に対してより楽観的な見方をしているようである。²²⁾

(4) 信仰に対する見解

ミレニアル世代の宗教観は他の世代と異なっている。ミレニアル世代では、いかなる宗教にも関わっていない("not affiliated with any religion")という割合が29%に達しており、X世代の21%、ベビーブーム世代の16%、沈黙世代の9%を大きく上回っている。²³⁾

ミレニアル世代では、「神の存在を絶対的に確信している」割合が58%、「神の存在を信じるが、確信はできない」割合が28%である。すなわちミレニアル世代の86%は「神」の存在を信じており、この割合は他の世代(X世代、ベビーブーム世代、沈黙世代とも93%)よりも少ない。神の存在を信じないと答えたミレニアル世代は11%にのぼるが、他の世代では5~6%にすぎない。

また、自分のことを「宗教的な人」(a religious person)と思うか否かという問いに対して、「そう思う」と答えた割合は、X世代は52%、ベビーブーム世代は55%、沈黙世代は61%にのぼったのに対して、ミレニアル世代は36%にすぎなかった。²⁴⁾

ミレニアル世代では、いかなる宗教にも関わっていないと答える者が29%におよぶ一方で、86%が神の存在を信じている。ミレニアル世代の若者たちは、神への信仰を抱きつつも、自らを「宗教的」と見なすのを拒否し、教会

をはじめとする宗教的組織に属することを嫌っていると言えるのではなかろうか。²⁵⁾

(5) 政治・社会的見解

2014年現在、ミレニアル世代の50%が政治的無党派(Independent)であると答えている。共和党を支持すると答えた者は17%、民主党を支持すると答えた者は27%であった。無党派と答えた割合は、X世代では39%、ベビーブーム世代では37%、沈黙世代では32%であり、ミレニアル世代が最も高くなっている。²⁶⁾

ミレニアル世代は、過去2回の大統領選挙(2008年と2012年)において、圧倒的に民主党候補を支持した。出口調査によれば、2008年と2012年の選挙における若者と高齢者の投票行動の差は顕著なものであった。2008年の大統領選挙では、18~29歳の66%がオバマを支持した。一方、65歳以上でオバマ支持した割合は45%であり、その差は21ポイントであった。2012年の大統領選挙では、18~29歳の60%がオバマ支持した。一方、65歳以上でオバマ支持した割合は44%であり、その差は16ポイントであった。²⁷⁾

ミレニアル世代は、4つの世代のなかでその信条が最もリベラルな世代であり、リベラルの割合の方が保守の割合よりも多い唯一の世代である。2014年現在、自分の政治的信条を「保守」(conservative)と答えた割合は、沈黙世代が45%、ベビーブーム世代が41%、X世代が35%であり、ミレニアル世代は26%に過ぎなかった。「リベラル」(liberal)であると答えた割合は、ミレニアル世代は31%だったが、X世代が24%、ベビーブーム世代が21%、沈黙世代では18%に過ぎなかった。²⁸⁾

X世代、ベビーブーム世代、沈黙世代では「保守」と答える割合の方が「リベラル」と答える割合よりも高いが、ミレニアル世代においては「リベラル」と答える割合(31%)の方が「保守」と答える割合(26%)よりも高くなっている。ちなみに、「中道」(moderate)と答えたミレニアル世代の割合は39%であった。

政治的な事柄について、ほぼ半数48%のミレニアル世代が、自分の見解は以前よりもリベラルになってきたと答えている。一方、これ以外の世代では、X世代では48%、ベビーブーム世代では53%、沈黙世代では57%というように、そのほぼ半数以上が、政治に関する事柄について以前よりも保守的な見方をするようになってきたと答えている。²⁹⁾

同様の傾向は、社会的な事柄についても当てはまる。社会的な事柄について、57%のミレニアル世代が、自分の見解は以前よりもリベラルになってきたと答えている。これ以外の世代では、X世代では52%、ベビーブーム世代では56%、沈黙世代では51%というように、その半数以上が、社会に関する事柄について、以前よりも保守的な見方をするようになってきたと答えている。³⁰⁾

①同性婚に対する見解

ミレニアル世代は、同性婚、異人種間の結婚、マリファナの合法化といった社会的な事柄について明確にリベラルな見解を持っている。³¹⁾

2014年までの過去10年間に、同性婚を支持する割合はどの世代においても増えてきた。2004年から2014年までの間に、同性婚を支持する者の割合は、X世代では40%から55%へと15ポイント増加、ベビーブーム世代では30%から48%へと18ポイント増加、沈黙世代では18%から38%へと20ポイント増加した。ミレニアル世代は同性婚を最も支持している世代であり、2004年の44%から2014年の68%へと10年間に28ポイント増加している。³²⁾

②マリファナの合法化

マリファナの合法化についても、すべての世代において支持が高まってきている。2014年現在、X世代の53%、ベビーブーム世代の52%、沈黙世代の30%が合法化を支持している。ミレニアル世代における支持率の増加は突出している。2005年には34%のミレニアル世代が支持していたが、2014年現在ほぼ倍増し、69%のミレニアル世代がマリファナの合法化を支持している。³³⁾

③その他の社会的課題

アメリカ社会の重要な社会的課題である妊娠人工中絶と銃規制については、世代間に大きな違いは見られない。2014年現在、ミレニアル世代の56%、X世代の59%、ベビーブーム世代の52%、沈黙世代の42%が妊娠人工中絶の合法化を支持している。

銃規制に関する見解についても、世代間の違いはさほど大きくない。ミレニアル世代の49%、X世代の48%、ベビーブーム世代の44%、沈黙世代の51%が、銃を規制することの方が、銃所持の権利を守ることよりも重要であると答えている。³⁴⁾

2010年にオバマ大統領が署名し成立した「患者保護並びに医療費負担適正化法」(Patient Protection and Affordable Care Act)いわゆる「オバマケア」について、2013年12月にピュー・リサーチ・センターが行った調査によれば、この法律を支持する割合は、ミレニアル世代は42%、X世代は43%、ベビーブーム世代は41%、沈黙世代は39%となっており、4つのすべての世代で「支持」は約40%に留まっている。法律に反対する割合は、ミレニアル世代は54%、X世代は55%、ベビーブーム世代は54%、沈黙世代は54%で、4つの世代で54~55%となっている。一方、連邦政府の責任においてすべての国民皆保険を実現すべきであると答えた割合は、X世代は46%、ベビーブーム世代は42%、沈黙世代が45%だったのに対して、ミレニアル世代では54%にのぼっている。³⁵⁾

このように、リベラルな見解を持ち、オバマを支持してきたミレニアル世代は、他の世代の人々に比べて、より積極的な政府(activist government) すなわち、いわゆる「大きな政府」を支持していると言えよう。³⁶⁾2013年9月にピュー・リサーチ・センターが行った調査によれば、ミレニアル世代の53%が「より大きな政府」(bigger government)を支持しているが、X世代は43%、ベビーブーム世代は32%、沈黙世代は22%が支持したに過ぎなかった。³⁷⁾

むすび

以上、ピュー・リサーチ・センターの報告書“Millennials in Adulthood: Detached from Institutions, Networking with Friends”の概要を紹介しながら、ミレニアル世代と呼ばれるアメリカの若者たちの特徴について紹介した。

同報告書は、1980年以降に生まれ、2014年現在18歳から33歳までの若い成人を対象とした調査をまとめたものである。このミレニアル世代がアメリカの成人人口の中で占める割合は2014年現在27%である。他の世代においては、60%以上を占める非ヒスパニックの白人の割合は、この世代においては57%にとどまっている。それは、アメリカの若い世代において人種の多様性が高まりつつあることを示している。ミレニアル世代においてはまた、他の世代で30%台である政治的無党派の割合が50%にのぼっており、彼らは政治的・社会的に「リベラル」な信条を持っている。

人種的に多様でリベラルな信条を持ち、政治的には圧倒的に無党派の多い

ミレニアル世代の若者たちは、自分自身と自国の未来に対して楽観的な見方を持っている。彼らはまたデジタル・ネイティブとも呼ばれる優れた情報ネットワーク構築能力を有している。ミレニアル世代と呼ばれるこの新たなアメリカ人たちは、アメリカ合衆国の「国のかたち」をこれからどのように変えていくのだろうか。アメリカの人口動態の変化と共に、ミレニアル世代の今後の動向が注目される。³⁸⁾

〈注〉

- 1) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood: Detached from Institutions, Networked with Friends" (March 7, 2014)
< <http://www.pewsocialtrends.org/2014/03/07/millennials-in-adulthood/> > 12 March 2015. ミレニアル世代をめぐる先行研究には以下のものがある。モーリー・ウィングラッド、マイケル・ハイス著、横江公美訳『アメリカを変えたミレニアル世代～SNS・YouTube・政治再編』岩波書店、2011年。
- 2) “. . . the youngest Millennials are in their teens and no chronological end point has been set for this group yet.” Pew Research Center, “Millennials in Adulthood” 4, 9.
- 3) ミレニアル世代について分析しているゴールドマン・サックス社のサイトではミレニアル世代を「1980年から2000年までに生まれた者」と定義づけている。Goldman Sachs "Millennials Coming of Age"
<<http://www.goldmansachs.com/our-thinking/outlook/millennials/index.html?cid=tw-or-mil-3>> 30 March 2015.
- 4) Pew Research Center, “Millennials in Adulthood” 4-5; 9. ビュー・リサーチ・センターの報告書はこの他に、1928年より前に生まれた人々を「最も偉大な世代」(The Greatest Generation)と区分しているが、この世代に属する人の数は少ないため当該報告書では調査対象となっていない。Pew Research Center, “Millennials in Adulthood” 9.
- 5) NTT 技術史料館「インターネットの技術」
< http://www.hct.ecl.ntt.co.jp/exhibitions/floorguide/tech_j. > 30 March 2015.
- 6) Pew Research Center, “Millennials in Adulthood” 6.
- 7) Pew Research Center, “Millennials in Adulthood” 6.

- 8) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 6.
- 9) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 9.
- 10) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 6.
- 11) アメリカで誕生した赤ちゃんの数は 2012 年現在 3,952,841 人だった。そのうち、非ヒスパニックの白人(non-Hispanic white)の赤ちゃんは 2,134,044 人であり、全体の約 53.9%であった。「非白人」(non-white)の赤ちゃんが 46.1%を占めていた。U.S. Department of Health & Human Services, "National Vital Statistics Reports, Volume 62, Number 9, Births: Final Data for 2012" (December 30, 2013) < http://www.cdc.gov/nchs/data/nvsr/nvsr62/nvsr62_09.pdf > 30 March 2015, 58.
- 12) U.S. Census Bureau, "U.S. Census Bureau Projections Show a Slower Growing, Older, More Diverse Nation a Half Century from Now" (December 12, 2012) < <https://www.census.gov/newsroom/releases/archives/population/cb12-243.html> > 30 March 2015.
- 13) U.S. Census Bureau, "U.S. Census Bureau Projections Show a Slower Growing, Older, More Diverse Nation a Half Century from Now" (December 12, 2012) < <https://www.census.gov/newsroom/releases/archives/population/cb12-243.html> > 30 March 2015. 国勢調査局のこの予測によれば、アメリカの総人口は 2051 年に 4 億人を越え、2060 年には 4 億 2,000 万人に達する。
- 14) Pew Research Center, Paul Taylor, The NEXT America, April 10, 2014, "America's Racial Tapestry Is Changing" < <http://www.pewresearch.org/next-america/Americas-Racial-Tapestry-Is-Changing> > 30 March 2015. この調査は、以下の文献として出版されている。Paul Taylor and the Pew Research Center, *The Next America: Boomers, Millennials, and the Looming Generational Showdown*. New York. Public Affairs, 2014.
- 15) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 7.
- 16) Pew Research Center, "Americans and Social Trust: Who, Where and Why" (February 22, 2007) <<http://www.pewsocialtrends.org/2007/02/22/americans-and-social-trust-who-where-and-why/>> 30 March 2015.
- 17) Pew Research Center, "Trust and Citizen Engagement in Metropolitan Philadelphia: A Case Study" (April 18, 1997) < <http://www.people-press.org/1997/04/18/trust->

and-citizen-engagement-in-metropolitan-philadelphia-a-case-study/ > 30 March 2015. Sandra Susan Smith, "Race and Trust," *Annual Review of Sociology* 36 (2010) 453-75.

<<http://sociology.berkeley.edu/sites/default/files/faculty/Smith/RACE%20AND%20TRUST.pdf>> 30 March 2015.

- 18) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 8.
- 19) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 9.
- 20) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 9. Sandy Baum, "How much do students really pay for college?" Urban Institute (December 5th, 2013)
< <http://blog.metrotrends.org/2013/12/students-pay-college/> > 30 March 2015. U.S. Department of Education, National Center for Education Statistics, "Degrees of Debt: Student Loan Repayment of Bachelor's Degree Recipients 1 Year After Graduating: 1994, 2001, and 2009" (OCTOBER 2013)
< <http://nces.ed.gov/pubs2014/2014011.pdf> > 30 March 2015.
- 21) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 5, 9.
- 22) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 8.
- 23) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 4.
- 24) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 45.
- 25) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 13.
- 26) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 11, 20.
- 27) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 11-12.
- 28) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 22-23.
- 29) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 23.
- 30) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 23.
- 31) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 31.
- 32) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 31.
- 33) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 32.
- 34) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 34-35.
- 35) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 35-36.
- 36) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 7.
- 37) Pew Research Center, "Millennials in Adulthood" 35.

- 38) 2015年3月に藤本耕平著『つくし世代～「新しい若者」の価値観を読む』(光文社新書)という本が出版された。わが国においても、アメリカのミレニアル世代に相当する若い世代が形成されつつあるのかもしれない。若い世代をめぐる今後の日米比較研究が期待される。